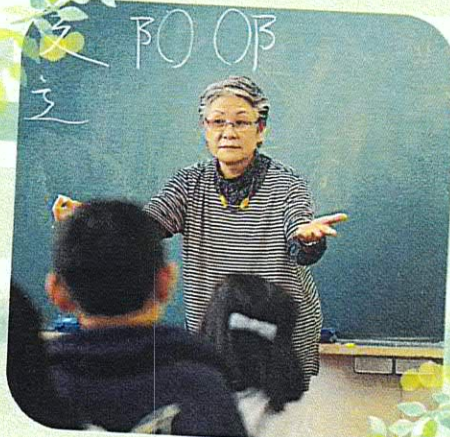
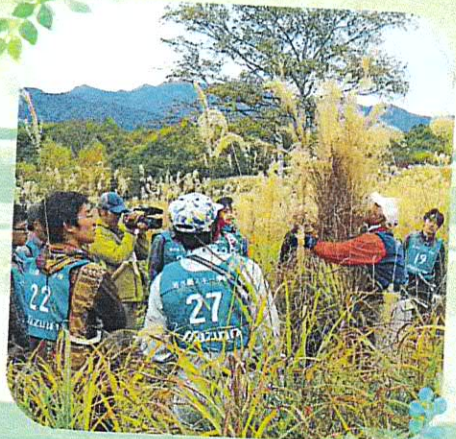
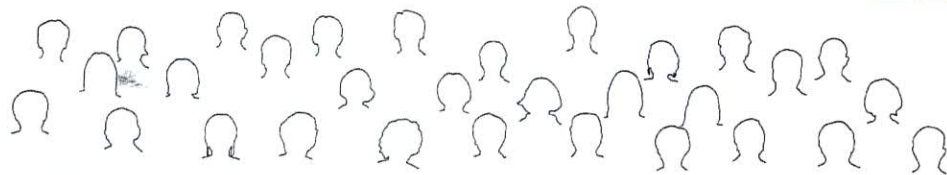


# 第62回 社会貢献者の記録



公益財団法人  
社会貢献  
支援財団

# 記念写真



- |       |                                  |                      |                               |                      |                      |                              |                        |                     |                               |                |       |
|-------|----------------------------------|----------------------|-------------------------------|----------------------|----------------------|------------------------------|------------------------|---------------------|-------------------------------|----------------|-------|
| 長瀬 隆  | 山家 京子<br>Jほの会<br>ホリシティ・アチーム・カンデー | 萬代 好伸<br>OPEN JAPAN  | 水流 源彦<br>ゆうかり                 | 松浦 一樹<br>EVOLUTION   | 中村 八千代<br>ユニカセジャパン   | 林 伸彦<br>親子の未来を支える会           | 若林 優子<br>子育て応援レストラン    | 熊本 豊敏<br>関がい善アート協会  | 高田 和久<br>地域活動支援センター<br>北九州マツパ | 中原 美智子<br>つぎはる | 市川 晋一 |
| 松本 知美 | 大野 真如<br>あまね                     | 北山 郁人<br>森林塾青木       | 芥川 光江<br>チャイルドライン<br>ハートフルえひめ | 須藤 九子<br>野のゆり        | 鈴木 共子<br>いのちのミュージアム  | 藤井 友紀<br>心臓病の子どもを守る<br>京都父の会 | 本郷 由美子<br>下町フリーサポート連和園 | 田村 隆幸<br>市民ひろば なら小基 | 須田 和夫<br>島嶼山にフナを植える会          |                |       |
| 加岡 治男 | 鯨島 浩一<br>あんしん会と子の養育婦人科<br>遠藤医院   | 服部 和子<br>スリヤール スリランカ | 与那嶺 清子<br>沖縄県母子保健福祉委員会        | 五嶋 節<br>ミニシックスシェアリング | 会長 安倍 昭恵<br>社会貢献支援財団 | 道村 静江                        | 本村 恵美子<br>VO ひまわり      | 原田 淑人               |                               |                |       |

## NPO 法人 ENDEAVOR EVOLUTION

京都府



理事長  
松浦 一樹

学生時代に社会福祉を専攻し、元京都府警の少年課刑事という異色のキャリアを持つ松浦一樹さんが設立し理事長を務めている。松浦さんは、事件で知的障がいのある青年を逮捕したことを契機に、人生で過ちがあってもやり直したい、ハンディを抱えていても頑張りたいという気持ちを持つ若者たちが、生活を共にしながら仕事を通じて成長できるよう、作業所を開きたいと思うようになり、周囲の反対を押し切り1999年に無認可の作業所に転職。その後NPO法人の認証を受け、現在就労支援A型事業所「ワークチャレンジスタイル GOKENDO」を運営している。伏見区に物流拠点をもつ株式会社五健堂とその関連企業と連携し、野菜加工やトレイの仕分け、ピッキング、配送ケースの洗浄など、スキルを伴う各種作業を担っている。この就労訓練を経て一般雇用につなげるが、途中でつまずいても、再び就労訓練に戻れるようにすることで離職率はゼロ。このステップアップ型就労支援により、全国平均のおよそ2倍の収入を達成、京都府のモデル事業とも言われ、真の福祉の実現に貢献。さらに親からの虐待などで家庭環境に大きな問題を抱えた若者たちが安心安全に暮らせるように、松浦さんは自宅マンションの隣の物件を3軒買い取り、グループホームを運営。親代わりとなつて、生活面と仕事面の両方を支え、彼らの自立に向けて日々奔走している。

(推薦者：アロマセラピー クレア 安川 淳子)

このたびは社会貢献者表彰を頂きまして本当に有難うございました。ご尽力を賜りました各関係者の皆様には心から感謝し、この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。

今から40年前の私が高校生の時に感じたこと、それは当時の排除の理念が強い社会、教育をこのまま続けていくと日本はいずれ必ずダメになってしまうということでした。そこで私は福祉・教育・心理学を学ぶために大学に進み、「失敗を許さない社会への挑戦」と題して、障害や課題があっても犯罪や引きこもりでつまずいたとしてもやり直しができる社会、頑張っている人が報われる社会を作りたいと勉強に励みました。大学卒業前に京都府警察を進路に選ぶきっかけになったのは、知人の紹介で知り合った少年課の刑事さんの存在でした。「こんな素晴らしい考え方の刑事さんがいるんだ！この方のような少年課の刑事になりたい！」という思いで警察官になりました。

その後、様々な出会いがあり、考えに考えた末の8年後、真の共生社会の実現を誓って刑事を辞職し、障害者福祉業界へ入ったのはバブルがはじけた後の世の中が大混乱の真っ只中でした。「力のある者が正義で、社会的弱者が排除される生きにくい社会を何とかしなければならない」と周囲の反対を押し切って己が信じた道を突き進んだのです。

そして失敗と経験を重ねて今から約17年前の平成19年にNPO法人を設立。制約が多い組織に所属しては、自分がやらなければならないことは実現できないと悟った私はやはり最後は自分でやるしかないとして独立することを決意したのです。

NPO 法人は障がい者自立支援法施行と共に設立しました。この時流れが私に向いてきていると強く感じました。多くの企業様との連携により独自のステップアップシステムを考案し、仕事を通して一緒に汗を流し、一緒に成長してきました。自立するためにはきちんとした仕事を確保し、工賃ではない、生活できるだけの給料を支払うことが大切だと思っています。また生活面の支援も欠かせません。しかし、昨今の新たな課題として多くの株式会社が福祉に参入したことで、福祉をビジネスとしてサービスを切り売りすることが福祉になってしまっている傾向があります。だから私たちは「福祉は誰のために、何のためにあるのか」をしっかりと伝え、あらゆる手段を使って、血の通った福祉の大切さを訴え続け、必ず真の共生社会を実現していかなければならないと強く思っています。



▲グループホーム SAMURAI 集合写真



▲グループホームにて 自分たちで調理中



▲仕事中 スーパーの空箱整理作業中



▲警察官時代の松浦さん



▲毎朝 6 時 50 分作業場朝礼風景



▲癒しの女神福利厚生 アロマハンドケア